

福岡大学病院における第1例目の脳死肺移植の術後管理 急性期の呼吸・循環管理

濱田 孝光¹⁾ 岩切 重憲¹⁾ 安元 正信²⁾
山下 裕一^{2,3)} 白石 武史⁴⁾ 平塚 昌文⁴⁾
宗像 光輝⁴⁾ 白日 高歩⁴⁾ 林 晶⁵⁾
瀧下由利恵⁵⁾ 坂本 真美⁵⁾ 生野慎二郎¹⁾
香取 清¹⁾ 仁田原慶一¹⁾ 比嘉 和夫¹⁾

1) 福岡大学医学部麻酔科学

2) 福岡大学病院手術部

3) 福岡大学医学部外科学消化器部門

4) 福岡大学医学部外科学呼吸器部門

5) 福岡大学病院看護部

要旨：福岡大学病院で第1例目の脳死肺移植術の術後管理を経験したので報告する。症例は、32歳男性。悪性リンパ腫に対して骨髄移植を受け、骨髄移植後移植片対宿主病を発症し、閉塞性細気管支炎となり肺移植の適応となった。手術は、左片肺脳死肺移植術を行った。術後、軽度の虚血再灌流傷害、急性拒絶をきたしたが、術後4日目には気管挿管チューブを抜管し、術後12日目に外科系集中治療室を退室した。

キーワード：脳死肺移植，閉塞性細気管支炎，虚血再灌流傷害，急性拒絶